

(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第 9 期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和 5 年 10 月

< 滝川市 >

目次

1 基本調査項目（A票）	[P. 1]
(1) 世帯類型	[P. 1]
(2) 家族等による介護の頻度	[P. 1]
(3) 主な介護者の本人との関係	[P. 2]
(4) 主な介護者の性別	[P. 2]
(5) 主な介護者の年齢	[P. 3]
(6) 主な介護者が行っている介護	[P. 4]
(7) 介護のための離職の有無	[P. 5]
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	[P. 6]
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	[P. 7]
(10) 施設等検討の状況	[P. 7]
(11) 本人が抱えている傷病	[P. 8]
(12) 訪問診療の利用の有無	[P. 9]
(13) 介護保険サービスの利用の有無	[P. 9]
(14) 介護保険サービス未利用の理由	[P. 10]
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	[P. 11]
(1) 主な介護者の勤務形態	[P. 11]
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	[P. 12]
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	[P. 13]
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	[P. 14]
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 15]
3 要介護認定データ	[P. 16]
(1) 年齢	[P. 16]
(2) 性別	[P. 16]
(3) 二次判定結果（要介護度）	[P. 17]
(4) サービス利用の組み合わせ	[P. 17]
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	[P. 18]
(6) 通所系サービスの合計利用回数	[P. 19]
(7) 短期系サービスの合計利用回数	[P. 20]
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	[P. 20]
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	[P. 21]

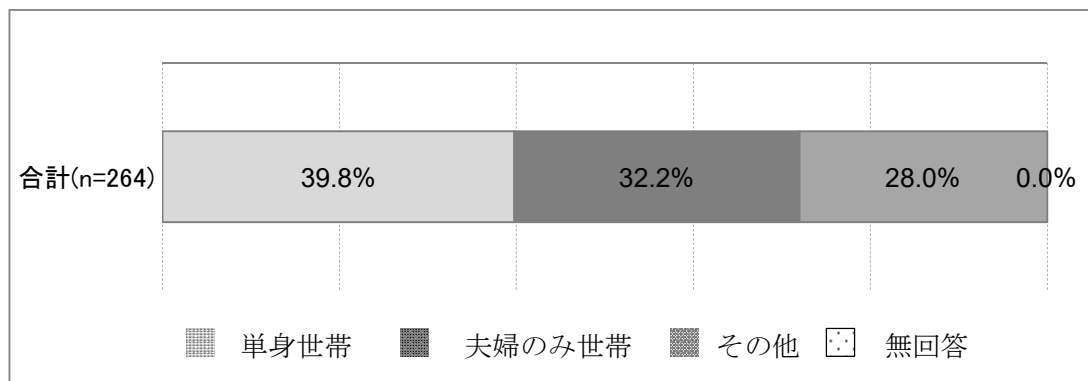
※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

「単身世帯」の割合が最も高く 39.8%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯（32.2%）」、「その他（28.0%）」となっている。

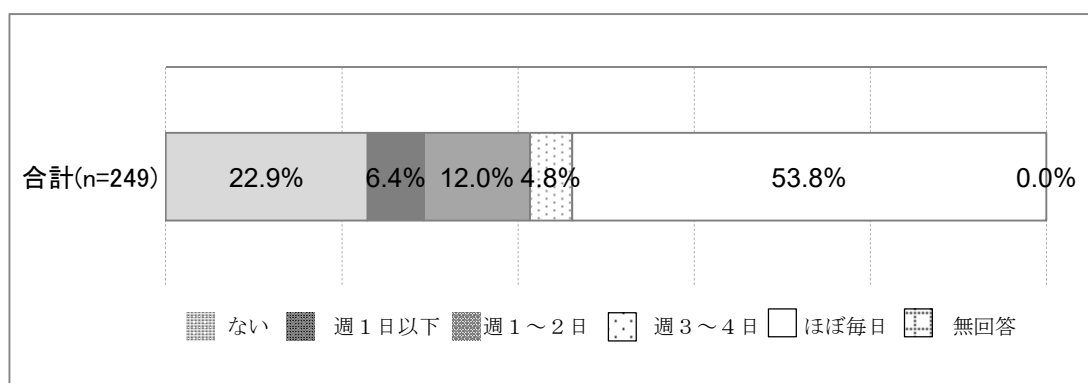
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 53.8%となっている。次いで、「ない（22.9%）」、「週 1～2 日（12.0%）」となっている。

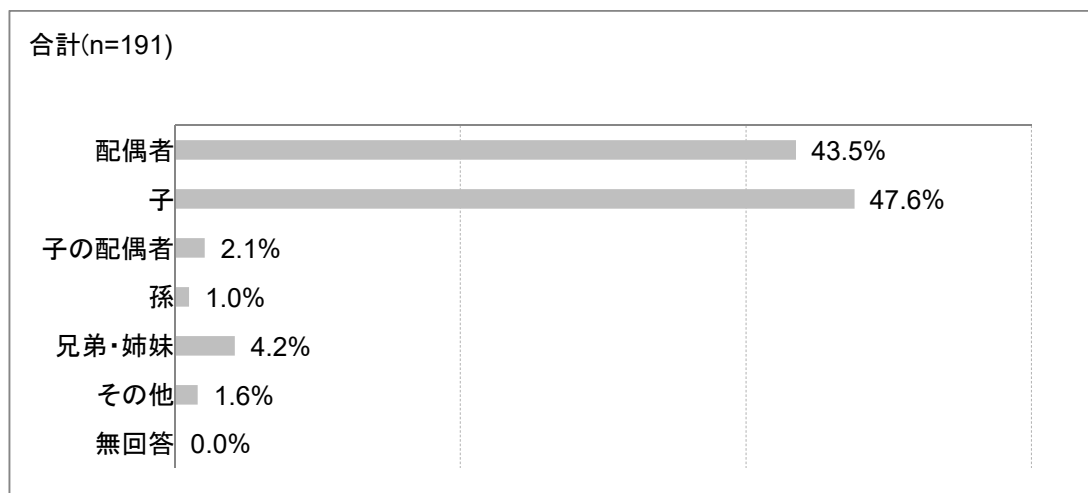
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 47.6%となっている。次いで、「配偶者（43.5%）」、「兄弟・姉妹（4.2%）」となっている。

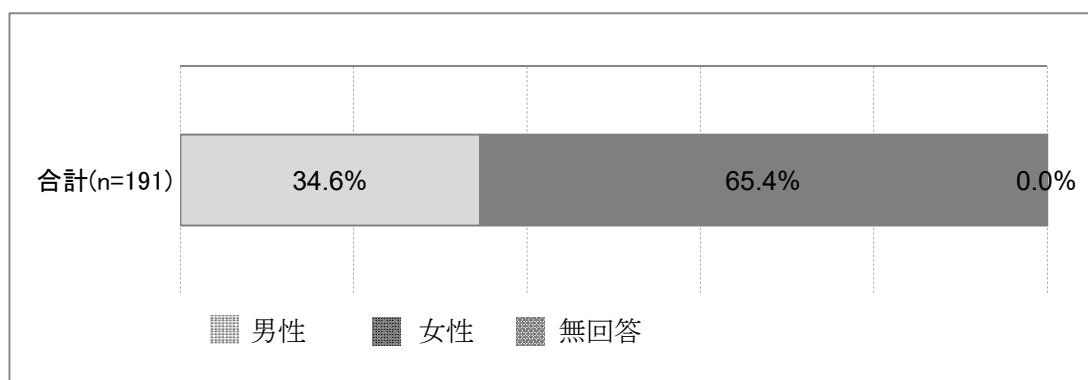
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



(4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く 65.4%となっている。次いで、「男性（34.6%）」となっている。

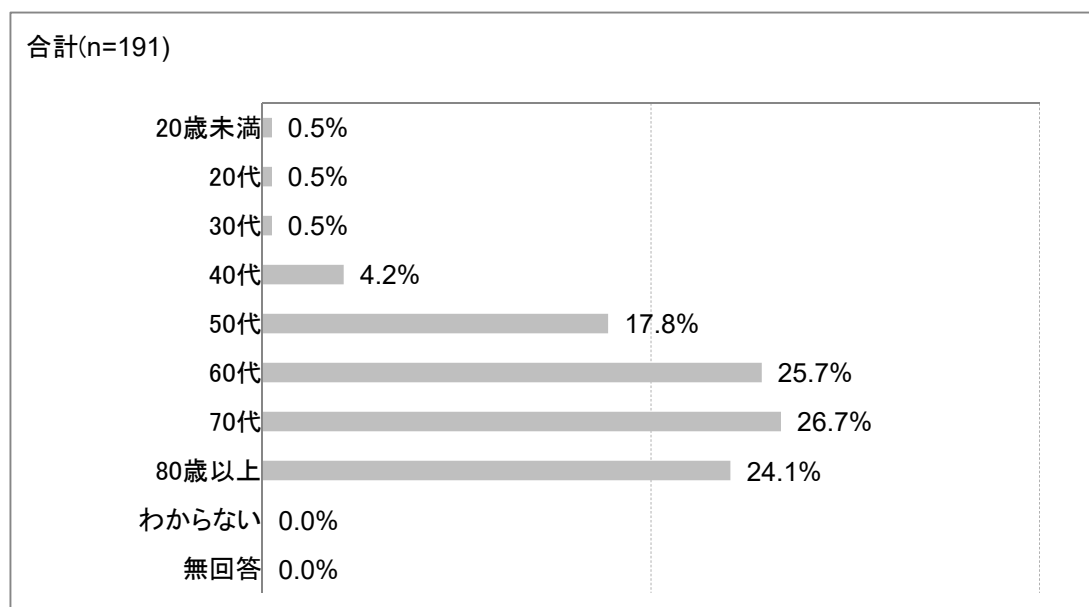
図表 1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



(5) 主な介護者の年齢

「70代」の割合が最も高く 26.7%となっている。次いで、「60代(25.7%)」、「80歳以上(24.1%)」となっている。

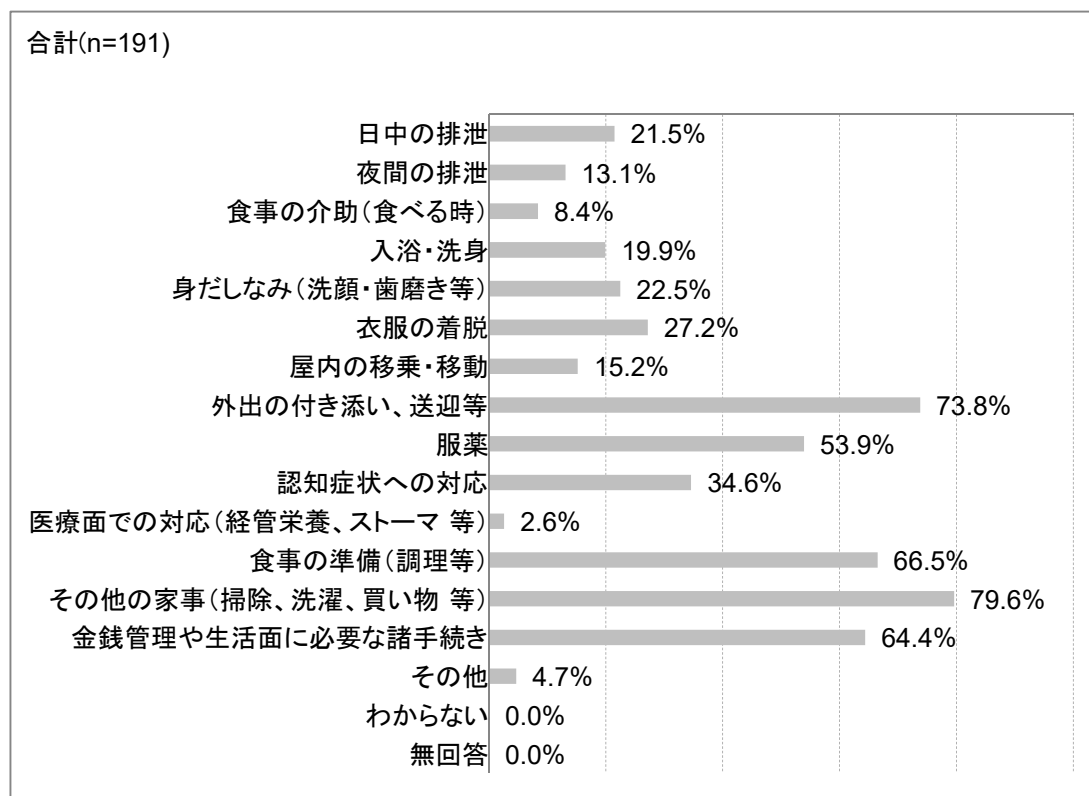
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 79.6%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等（73.8%）」、「食事の準備（調理等）（66.5%）」となっている。

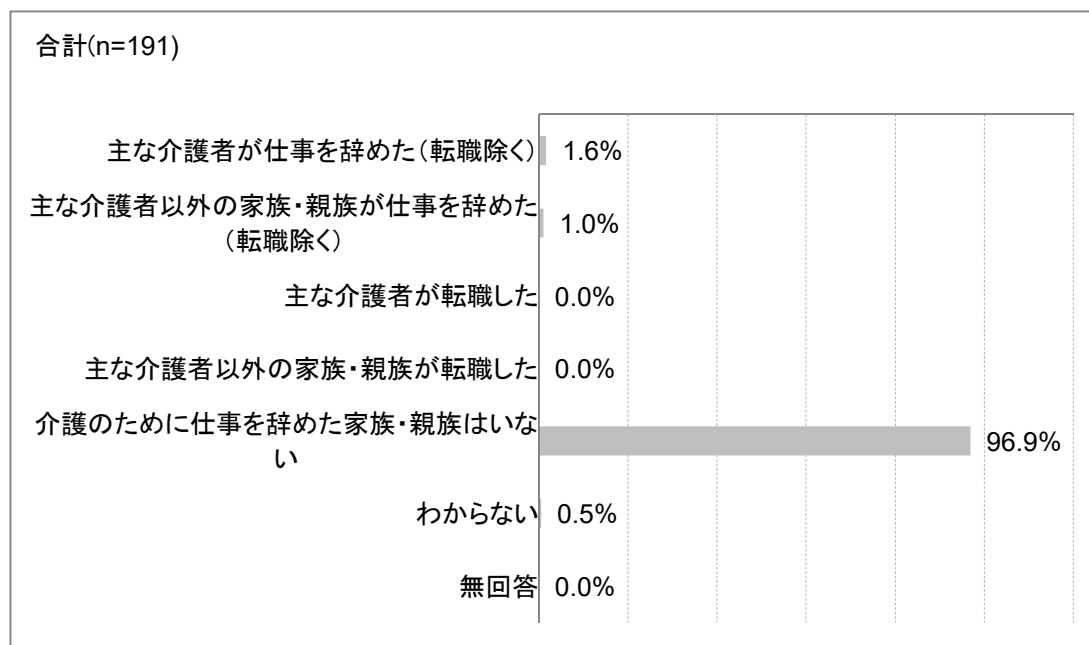
図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 96.9%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（1.6%）」、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）（1.0%）」となっている。

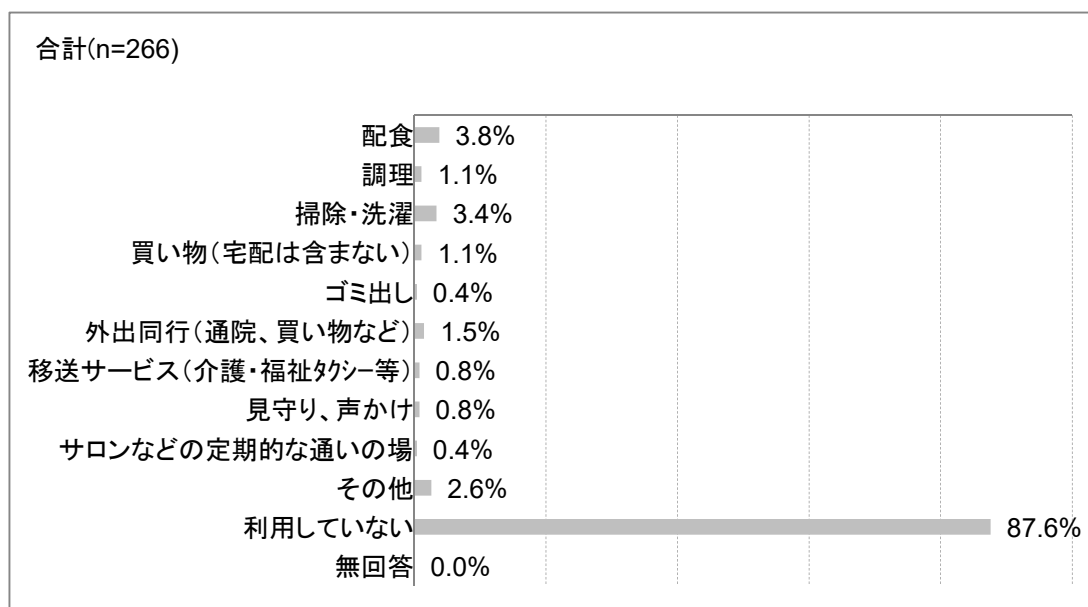
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 87.6%となっている。次いで、「配食（3.8%）」、「掃除・洗濯（3.4%）」となっている。

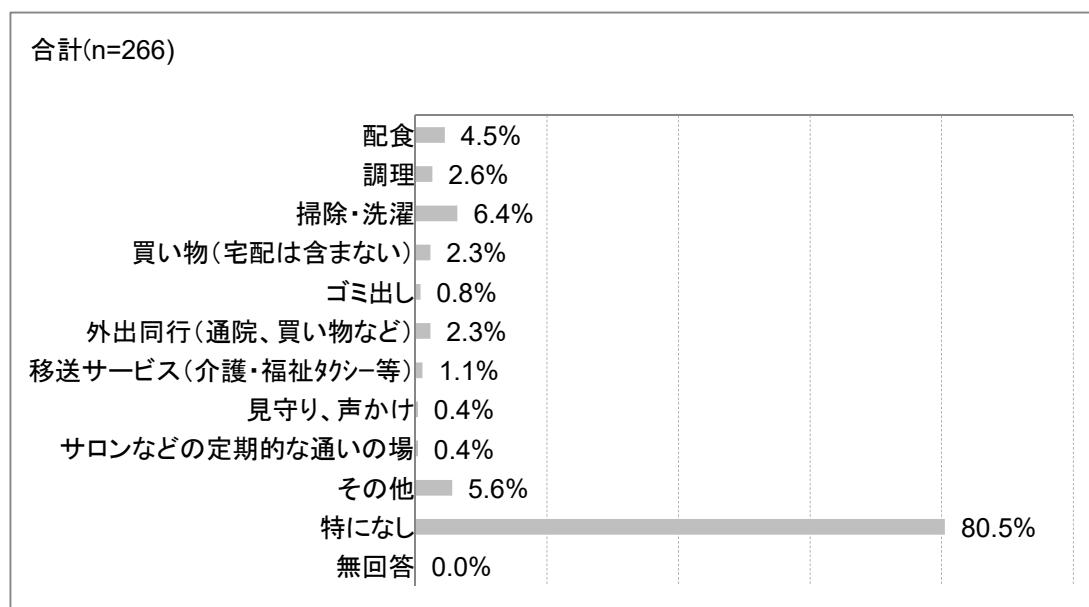
図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 80.5%となっている。次いで、「掃除・洗濯（6.4%）」、「その他（5.6%）」となっている。

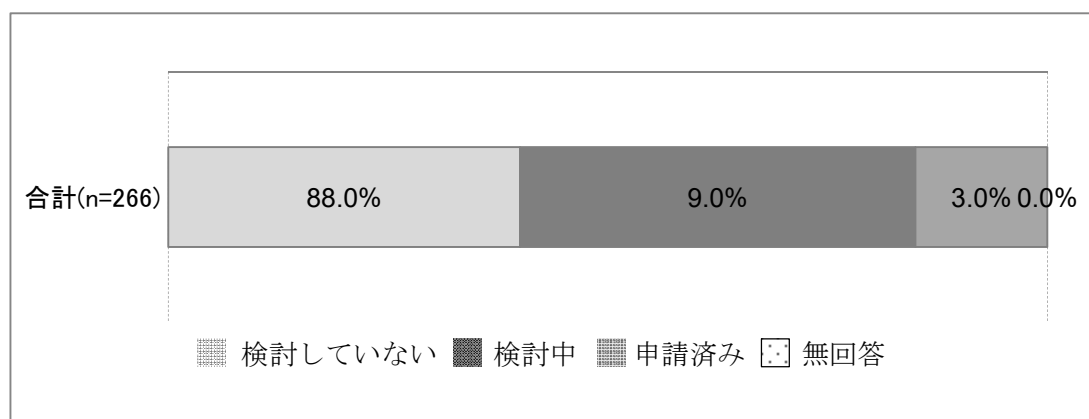
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 88.0%となっている。次いで、「検討中（9.0%）」、「申請済み（3.0%）」となっている。

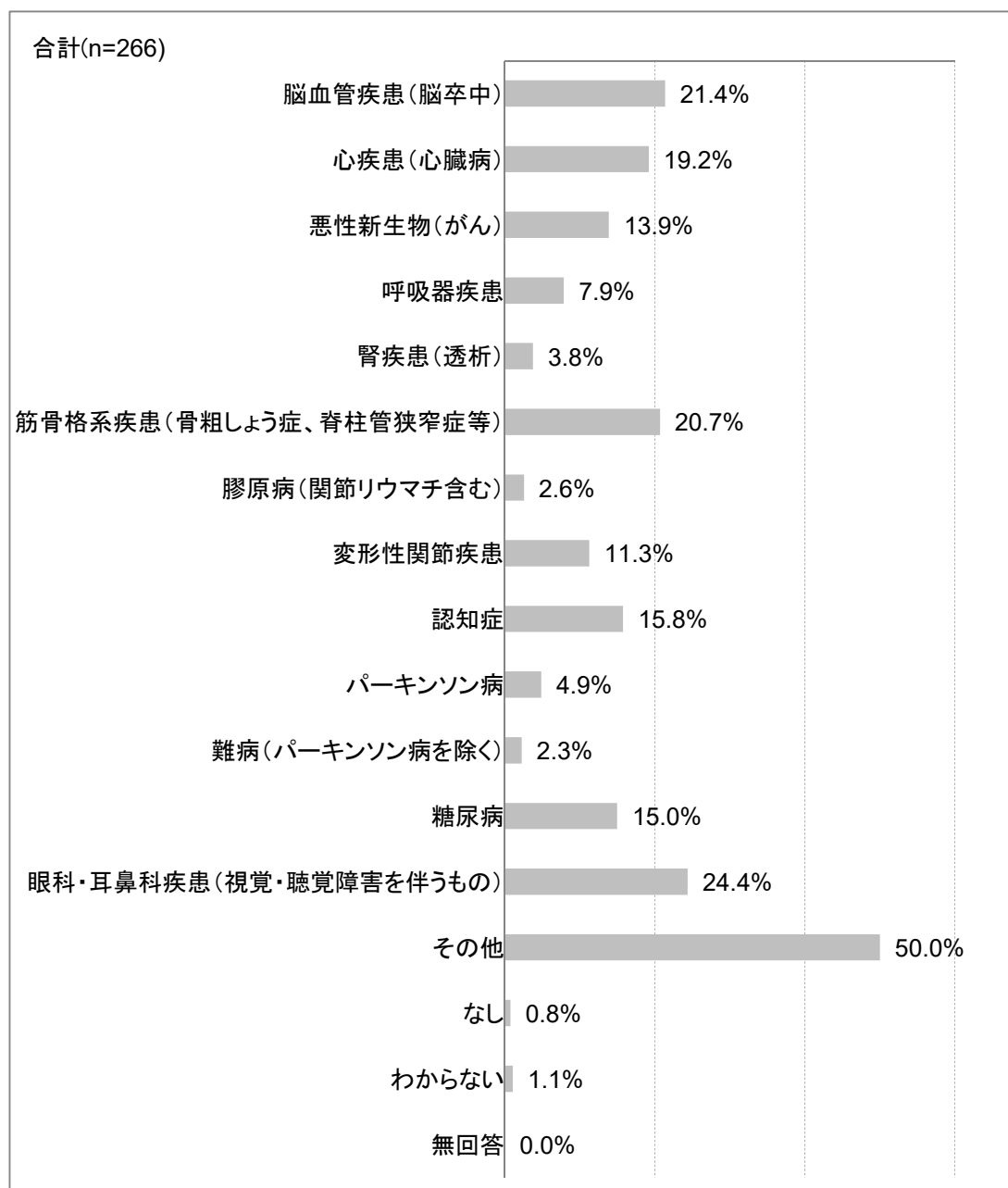
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

「その他」の割合が最も高く 50.0%となっている。次いで、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）（24.4%）」、「脳血管疾患（脳卒中）（21.4%）」となっている。

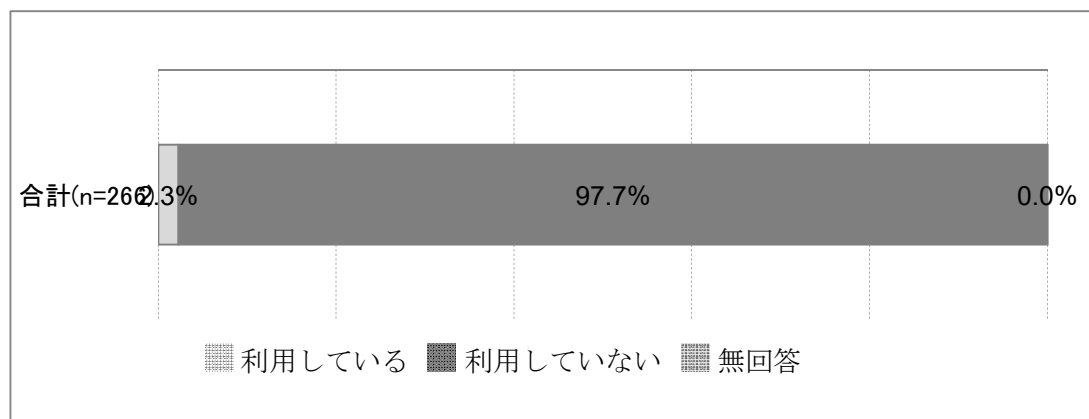
図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 97.7%となっている。次いで、「利用している (2.3%)」となっている。

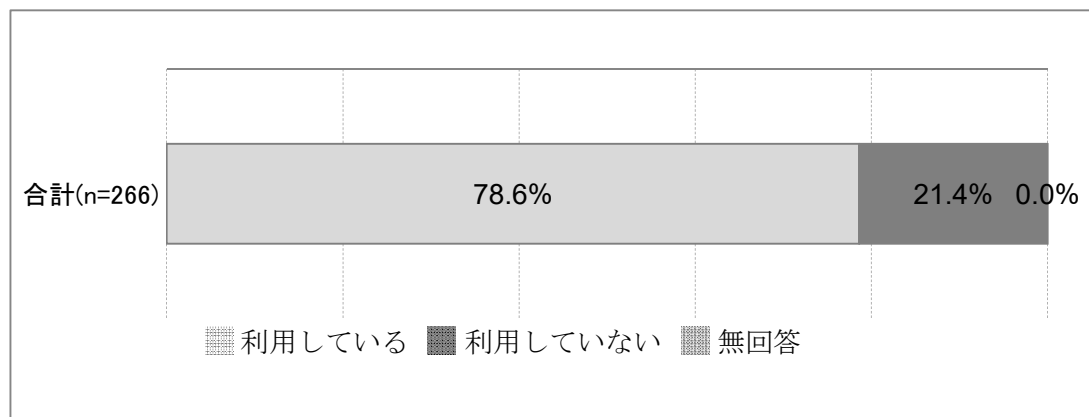
図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 78.6%となっている。次いで、「利用していない (21.4%)」となっている。

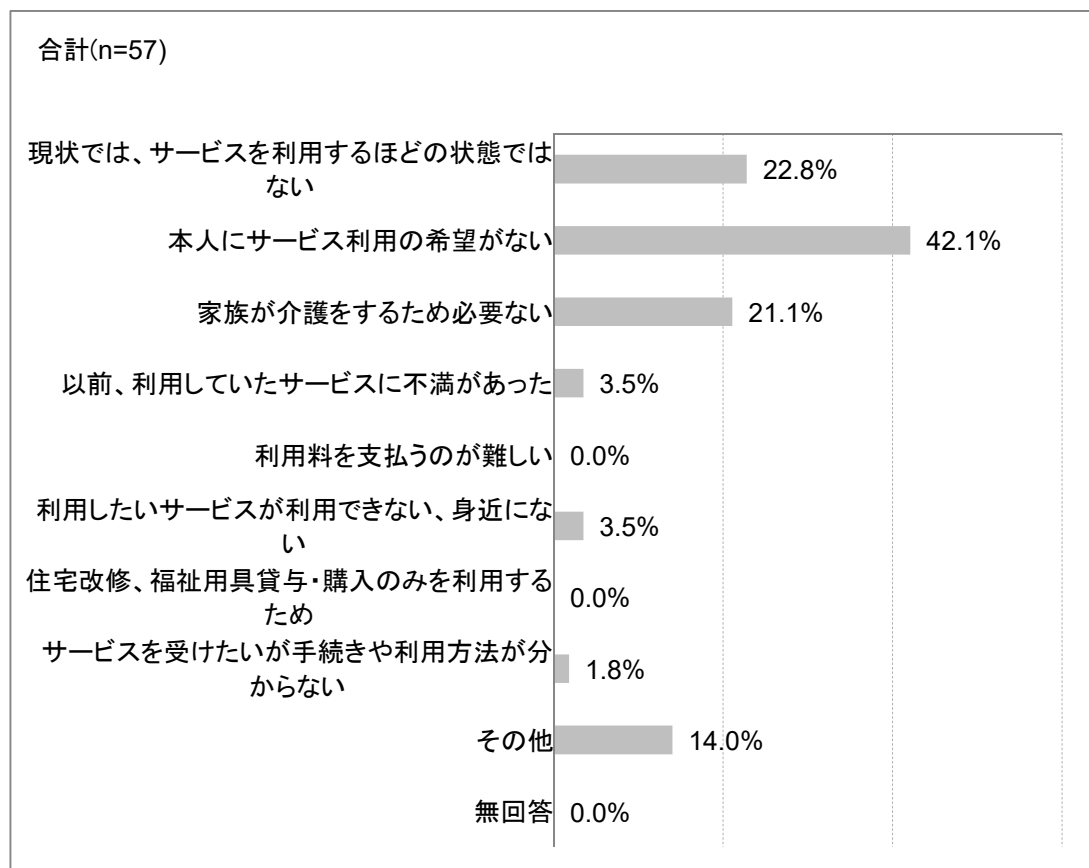
図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14) 介護保険サービス未利用の理由

「本人にサービス利用の希望がない」の割合が最も高く 42.1%となっている。次いで、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない（22.8%）」、「家族が介護をするため必要ない（21.1%）」となっている。

図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



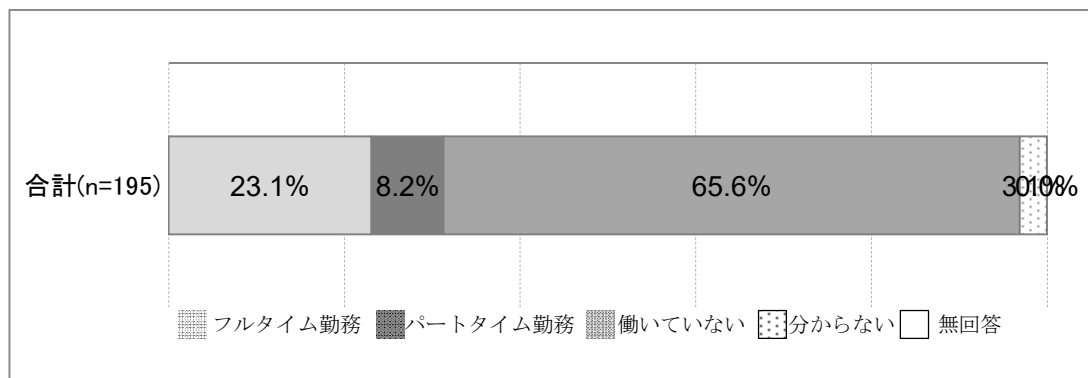
2 主な介護者様用の調査項目（B票）



(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 65.6%となっている。次いで、「フルタイム勤務 (23.1%)」、「パートタイム勤務 (8.2%)」となっている。

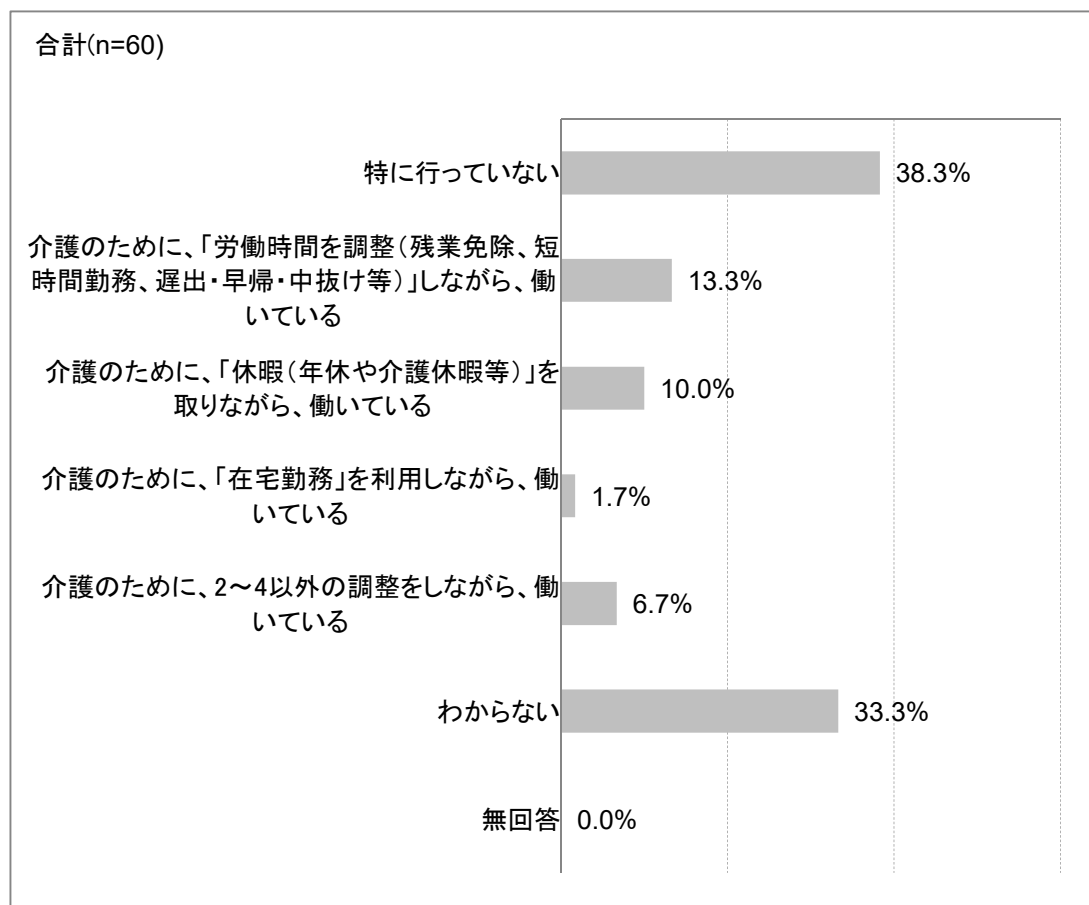
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 38.3%となっている。次いで、「わからない(33.3%)」、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている(13.3%)」となっている。

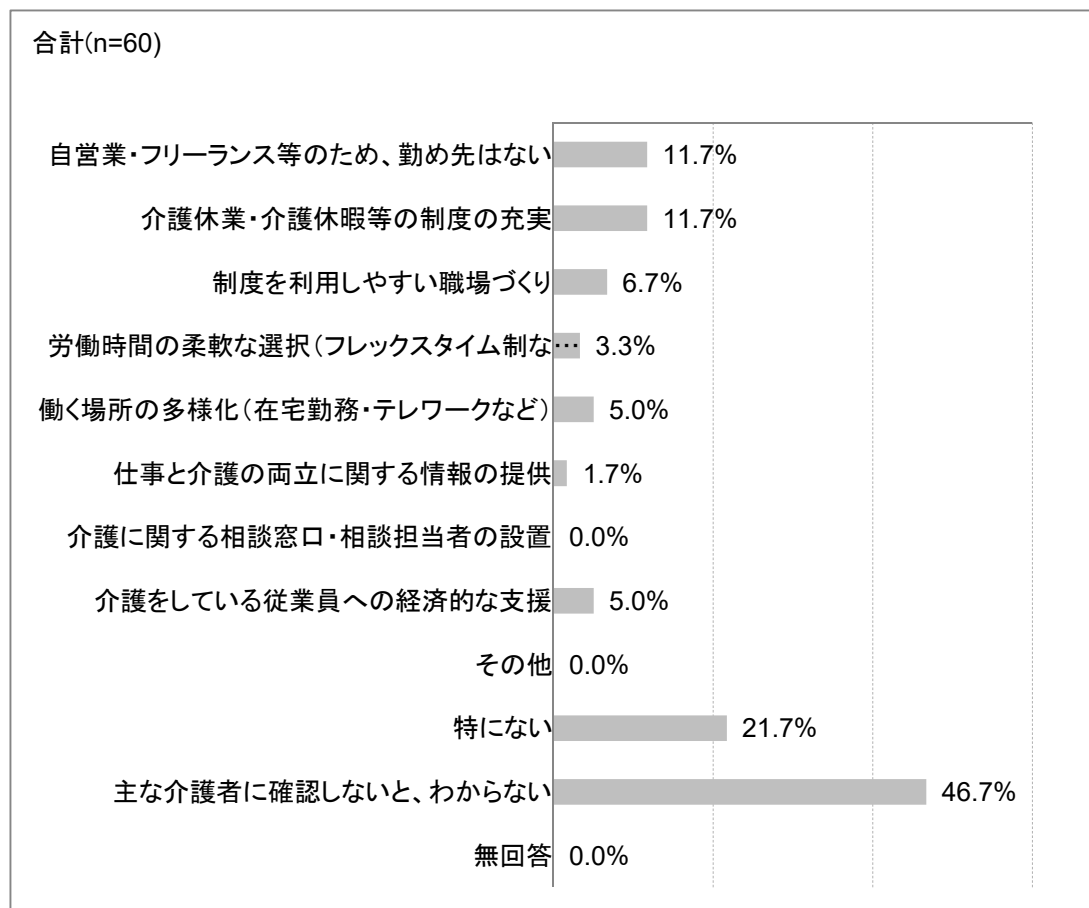
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「主な介護者に確認しないと、わからない」の割合が最も高く 46.7%となっている。次いで、「特にない (21.7%)」、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない (11.7%)」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実 (11.7%)」となっている。

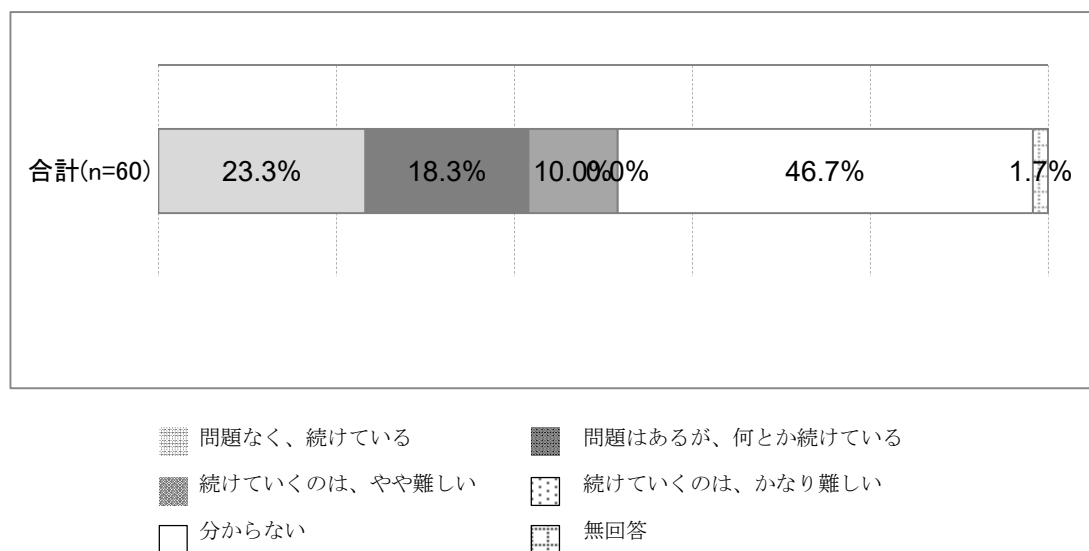
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「わからない」の割合が最も高く 46.7%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (23.3%)」、「問題はあるが、何とか続けていける (18.3%)」となっている。

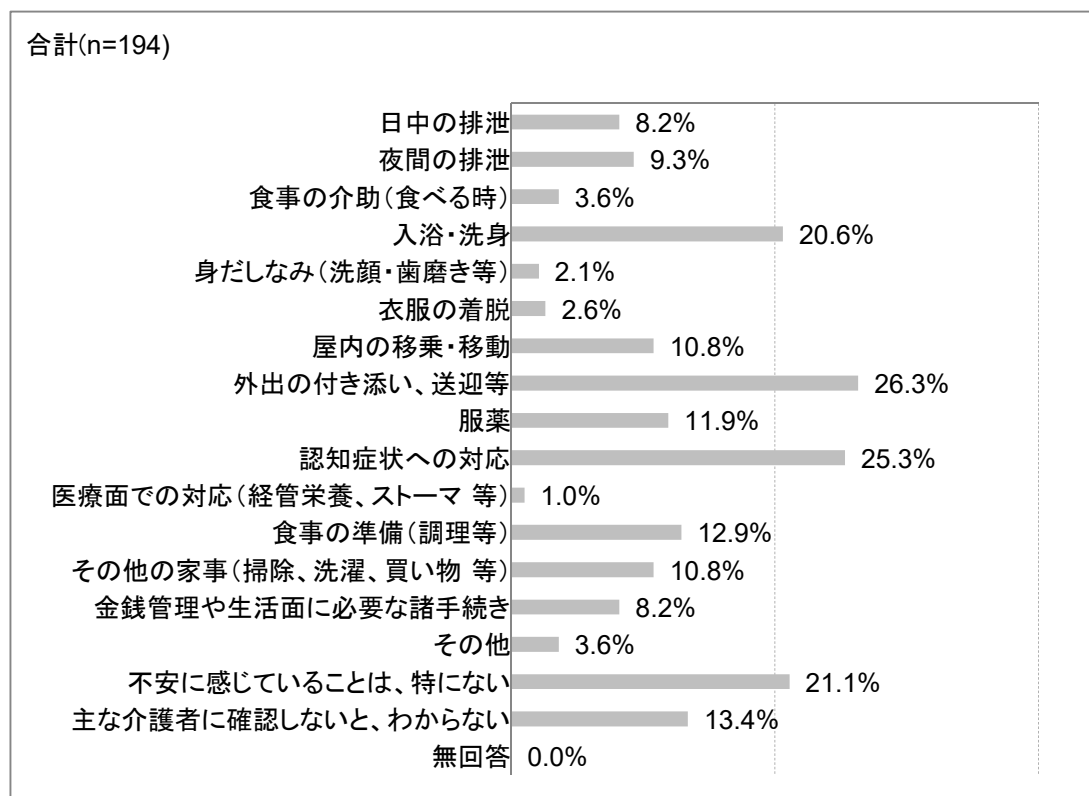
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く 26.3%となっている。次いで、「認知症状への対応（25.3%）」、「不安に感じていることは、特にない（21.1%）」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

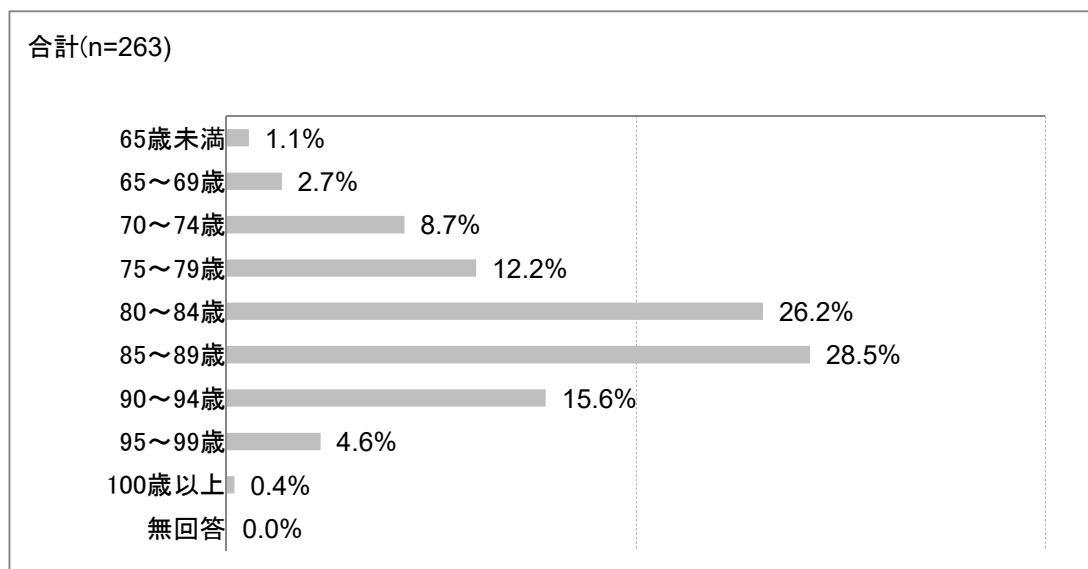


3 要介護認定データ

(1) 年齢

「85～89 歳」の割合が最も高く 28.5%となっている。次いで、「80～84 歳（26.2%）」、「90～94 歳（15.6%）」となっている。

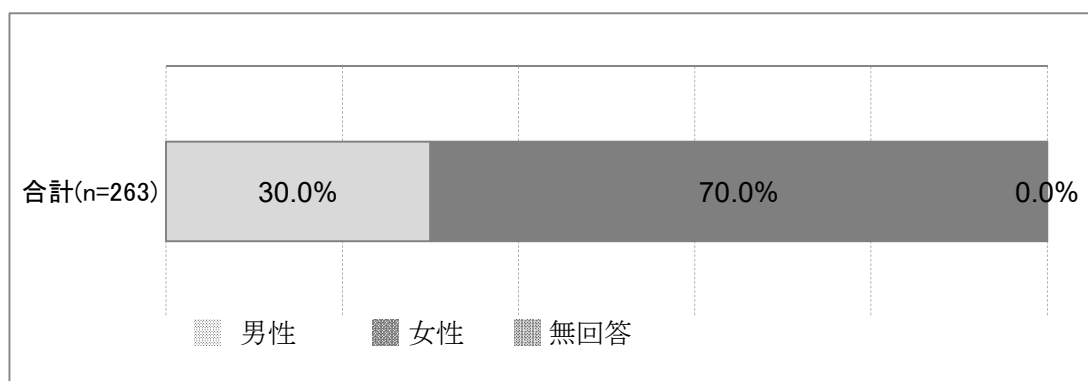
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」の割合が最も高く 70.0%となっている。次いで、「男性（30.0%）」となっている。

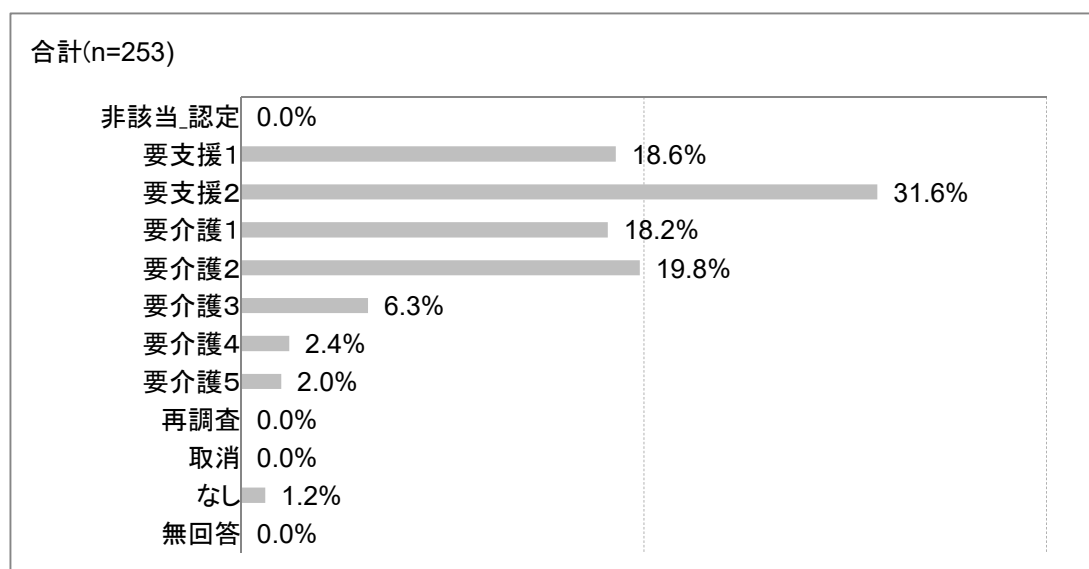
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要支援2」の割合が最も高く 31.6%となっている。次いで、「要介護2（19.8%)」、「要支援1（18.6%)」となっている。

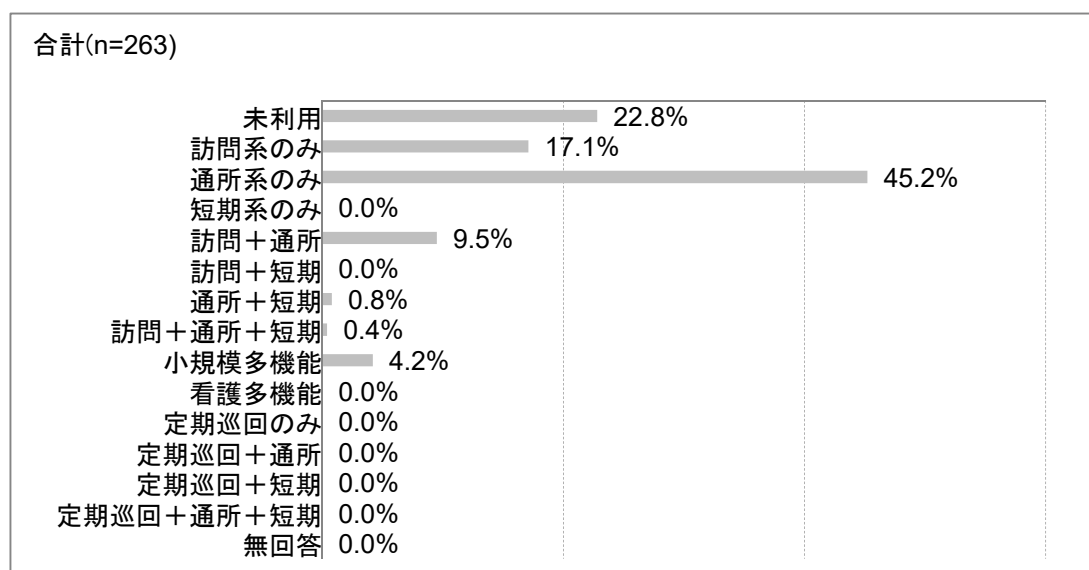
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く 45.2%となっている。次いで、「未利用（22.8%)」、「訪問系のみ（17.1%)」となっている。

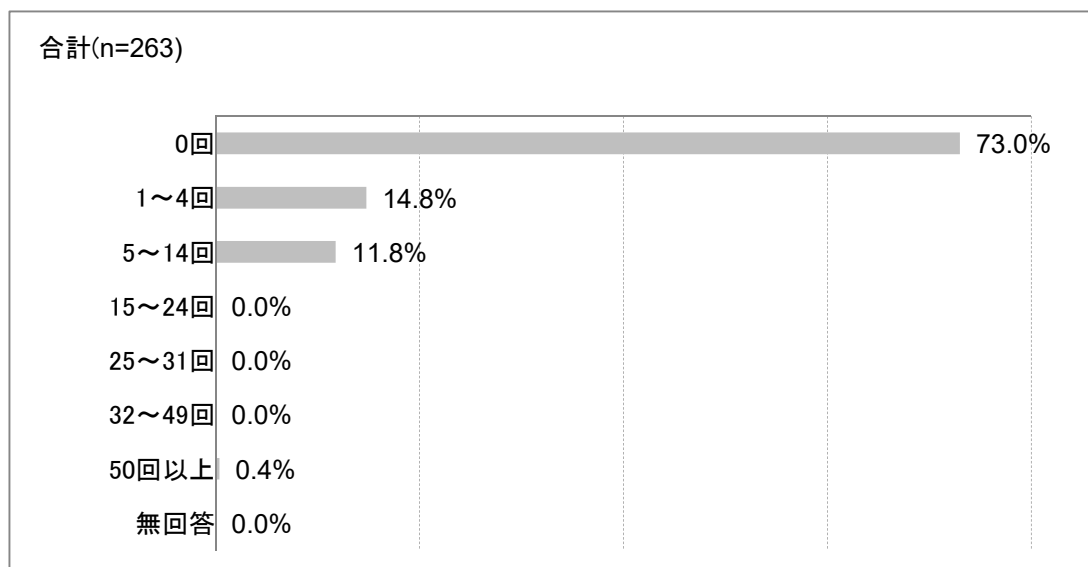
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 73.0%となっている。次いで、「1～4回(14.8%)」、「5～14回(11.8%)」となっている。

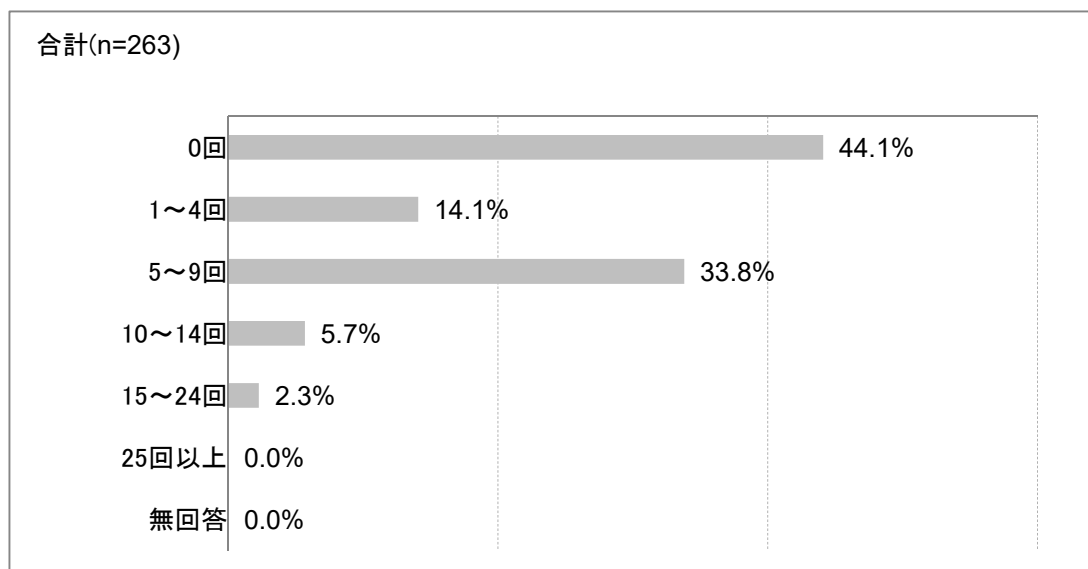
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 44.1%となっている。次いで、「5～9回(33.8%)」、「1～4回(14.1%)」となっている。

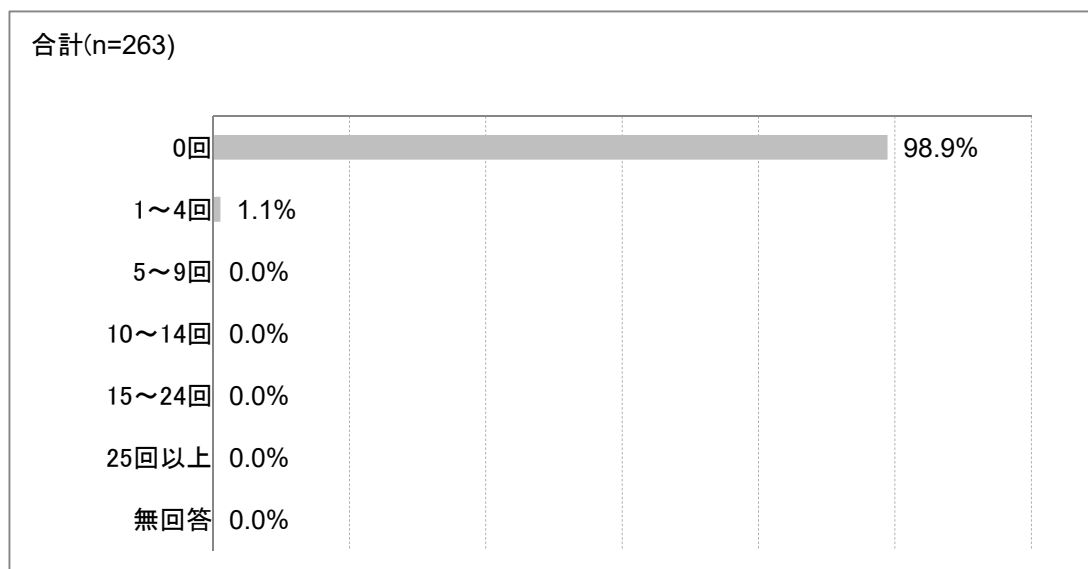
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 98.9%となっている。次いで、「1～4回 (1.1%)」、「5～9回 (0.0%)」、「10～14回 (0.0%)」、「15～24回 (0.0%)」、「25回以上 (0.0%)」となっている。

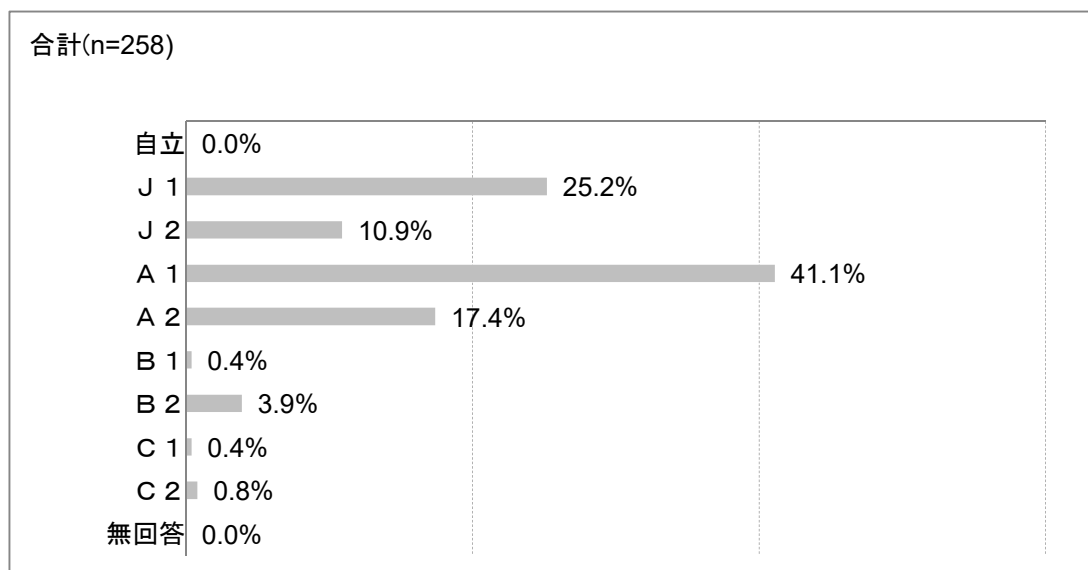
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A 1」の割合が最も高く 41.1%となっている。次いで、「J 1 (25.2%)」、「A 2 (17.4%)」となっている。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅱ b」の割合が最も高く 26.7%となっている。次いで、「Ⅰ」（26.4%）、「自立（25.2%）」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

